

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立天満小学校	校長氏名	岸保 仁司	生徒指導主事氏名	高垣 恵一
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『たてわり班活動』

取組のねらい

『キーワード』 一人ひとりの居場所づくり～新しい自分探し、見つけ～

異学年交流だからこそ発揮できる個の力を支え、児童の良さを見つける指導

- ・上級生と下級生が交流する中で、力を合わせて一つのものをつくりだすことの楽しさや喜びを味わわせ、同時に異年齢集団で連帯することの大切さを学ばせる。
- ・班長指導を通して、高学年児童にリーダーとしての自覚や力量を身につけさせる。

取組の具体的内容

『キーワード』 ・年齢の違う人たちとかかわることで自分のよさを見つける

・楽しいことを一緒に作ることで友達の良さを見つける

・一つ一つをていねいに取り組むことで達成感を味わう

4月に新年度のたてわり班を結成する。その際には、児童の特性などを考えながら、全職員で話し合い決定する。そして、異学年集団を活用した活動を年間を通じて行っていく。主なたてわり活動としては、春の歓迎遠足、たてわり班運動、夏季運動会、たてわり班仲間作り、新体力テスト、あいさつ運動、おりづる集会、なわとび検定、プラタナス集会こどもの日、たてわり班感謝会などを企画していく。

各たてわり班で活動する際、事前に5・6年生だけが集まってリーダー会議を行い、一つ一つの活動をどのようなものにしていきたいか、目標を設定する。また、一人ひとりにとって充実した活動となるように役割分担を考えたり、計画表を作成したりする。そうした活動を通して児童一人ひとりが自分のめあてをもって主体的に活動ができるようにしている。卒業式前にたてわり班感謝祭を行い、一年間、先頭に立って各班を引っばってきた6年生に対して、5年生を中心に感謝の気持ちを示す。その会を通して、5年生は、次年度のリーダーとしての自覚を持つようにする。

取組の課題・創意工夫

『キーワード』 年間を見据えた指導

それぞれの取組の前後には、①目的②めあて③ふりかえりの時間を設け、やりっぱなしの活動にならないようにする。全校共通のふりかえりカードをもとに、活動のめあて「自分のよさを見つけた」「協力して活動した」の評価と、自分の感想などを書くようにしている。活動に参加する前にめあてを考え、活動が終わってからふりかえる事前と事後の時間を必ず設けるようにしている。そのふりかえりをもとに、次の取組や学級での生活に繋げるなど、行事ありきではなく、各行事をきっかけとして、年間を通して継続的に児童を育てていく。

課題としては、リーダー学年の中に、指示待ちの姿勢が多く見られ、主体的に活動できていない児童がみうけられるため、今後も継続して主体的に行動することができるリーダーを育成していく必要がある。

取組の成果（効果）

『キーワード』 学校全体で全校児童を見守る

ふりかえりカードの記述から、「自分のよさを見つけた」や「友達のいいところを見つけた」など、肯定的に自分や他の児童の行動をふりかえている様子が見えかけた。また、異年齢集団で年間を通して様々なことに取り組んできた結果、相手の気持ちを考えて行動しようとする姿がみられた。また、日々の生活面では、他の児童を自然と助ける姿が見られるようになってきた。そうする中で、上学年への憧れや「自分たちもやりたい」という思いを抱くことができるようになってきた。クラスの中ではあまり自分の思いを出しにくい児童も、異学年集団の中では自分の役割と活躍の場があり、活動を通して自己肯定感を高められるようになってきている。

また、活動中の児童の様子を教職員間で共有することで、学校全体で児童を見守り、一人ひとりの成長が促進されるような雰囲気をつくれるようにする。

今後の展開

『キーワード』 つけた力を今後につなげる

12月の、「プラタナス集会子どもの日」でのたてわり班活動を通して、身に付けた力（企画すること、やり切ること、友達と協力すること、みんなが楽しめるようにすること）を自分たちのクラスの中で生かしていこうという思いを大事にし、自分たちに何ができるかを考え、学級活動に取り入れていく。

児童が主体となってクラスの行事を計画したり、運営したりすることで、自分たちでやり切る力をさらに伸ばしていくようにする。

他校へのアドバイス

『キーワード』 見通し・つながり

これまで述べたように一つの行事、一つの活動ではなく、あらゆるものを関連付けて、年間を通して児童を育てていくという長期的な視点をもつことを大事にしたい。授業だけでなく、様々な場面でめあてをもって取り組み、ふりかえりながら次の活動につなげていくようにする。そのためには、教師自身が児童にどんな力をつけたいのか、何のためにその取組を行うのかという意図や目的をしっかりとっておかなければいけない。一年間の中で、いつどんなことを行うのか、どんな行事があるのかをしっかりと持ち、見通しをもって取り組む必要がある。そうすることで、いろいろなことを関連付け、その経験を次に生かそうと考える児童や、自分なりのめあてをもって主体的に行動する児童が育っていくと思う。子ども達は必ず変化し、成長していく存在としてとらえ、その過程を評価していきたい。

